

**生まれて来た理由 (ルカ 1:8-20)**

なぜ自分はこの世に生まれて来たのか、自分は何のために生きるのかが分かっていないと、世の流れに流される人生となります。また、答えが間違っていると虚しい人生になります。今日の聖書から、なぜ生まれて来て、何のために生きるのかを確認して、契約として心に留めましょう。

**1. 自分が生まれて来た理由は「キリストの為」と答えを出す信者は最高の人生を生きることになる。**

1) 平凡(世)な理由

世の人の生きる理由は、自分がうまくいくため、良くなるため、幸せになるため、そのために、より豊かになろうとして、成功しようとしています。

2) キリストの為に-多くの人をキリストへとそのような未信者と同じ理由ではなく、私たちはキリストのために生きるという、最高に

価値ある理由があります。具体的には、多くの人々がキリストに立ち返るように手伝うのです。イエス様は罪人を救うために来られ、十字架で死なれました。それは、すべての人が神様から離れ、サタンの奴隷になって、地獄の運命を生きているからです。そして、悪魔はそこから出られないように、枠を作り、宗教、占い、偶像を文化として蓋をしています。それゆえ、人々は疲れて重荷を負い、ま

この幸せや安らぎなく生きています。そして、死んだらさばかれて、地獄に行く運命で、それが子孫に受け継がれるのです。これは、すべての人がそうなのです。クリスチャンも、自分の存在理由が分からないなら、自分の力でがんばって、精神、肉体が崩壊していきま

す。このような人間が生きる道は、キリストしかありません。悪魔のしわざを打ち壊し、罪と死の原理から解放され、いのちの祝福に預かることは以上、大切なことはありません。

人々をその唯一の道に導くために生まれて来たことで、自分の人生を編集しましょう。過去、現在、未来を、この理由で編集するし

て、再解釈しましょう。このことのために存在するので、人生のすべてを大事に愛するのです。勉強も、仕事も、病気になったのも、このことのために、道具なので、神様の計画がなにかを見ましょう。

3) 教会の為に

キリストに導くために神様が建てられた機関が教会です。その大切な教会のために生きるのです。献身することも、必要ときに献

金することも、生まれて来た理由が福音宣教なので、そのために教会の価値が分かって献身するのです。

4) 加えて与えられる人生

キリストのための理由なら、衣食住のことは

加えて与えられます。世にあるものすべてが道具となる余裕のある人生になります。

**2. 自分の計算(限界)による不信仰さえ捨てれば、この祝福を実際に体験出来る。**

キリストのための理由という答えを出しているなら、自分の計算、限界による不信仰さえ捨てれば、実際に祝福を味わえます。理解や計算ではなく、みことばは無条件にアメンとすれば良いのです。

1) 条件や環境、状況による不信仰

不信仰がサタンのやぐらとなっています。

2) 不信仰を殺して-口がきけない

神様から遣わされたガブリエルのことばを信じなかったザカリヤは口がきけなくなりました。自分で理解しようとするものではありません。紅海の前で、不信仰の民にモーセは黙って主のなさることを見なさいと言いました。エリコの城壁を回るときも、黙って回るように言われました。イエス様が40日間神の国のことを説明されたあと、弟子たちがイスラエルの国の再興を質問したのも、知

らなくても良いと言われました。不信仰に蓋をして閉じ込めるべきです。

3) 神様の約束は神様の力で-無条件、絶対みことばどおりアメンとするとき、みことばが動き始め、いのちの運動となります。神様の約束は、神様の全能の力で無条件、絶対に成し遂げられます。

4) 証拠-人の計算では不可能な状況から不可能な人を通して

モーセは歳をとってから召されました。羊飼いだっただビデを呼ばれました。初代教会の弟子たちは、乞食のような人々でしたが、世界福音化の門は開きました。

「キリストの為に」で人生を編集しましょう！現場と私の間にある不信仰の壁が崩れることを祈りましょう！神様の宝が隠されている現場、永遠のいのちに定められる魂が待っている現場、神様の願いが成就する現場に遣わされていのちの運動に用いられることを祈りましょう！

1部-ルカ 1:8-20 生まれて来た理由

なるほど/自分が生まれて来た理由は「キリストの為」とわかって、不信仰さえ捨てれば、人々をキリストへと導く最高の人生を生きることになる。

ならば/「キリストの為」で人生を編集して、自分と現場との間にある不信仰の壁が崩れることを祈り、現場でいのちの運動に用いられることを祈ろう！

2部-マタイ 13:44-50 天の御国の奥義

なるほど/天の御国はいのちの運動を通して必ず現場に現れるので、絶対信仰、絶対持続、絶対献身が求められる。

ならば/現場に真の弟子と救われるべき魂が備えられていることを信じる信仰を持って、出会いの門が開かれ救いの働きがなされることを祈ろう！